



そうめん流しに興じる

写真と文・松浦永司さん

暑中 お見舞い 申し上げます

暑い暑い夏です。

子供たちは汗みずくになって、この夏を生きています。

どんなに暑くても「いくさ」よりははるかにいい。

70年前の夏、子供たちはどのような夏を生きただけでしょう。

もう、決して70年前の夏に子供たちを戻さない。

千代田
区職労

退職者会 ニュース

第2015-6号
15年 8月15日
退職者会
ニュース
編集委員会
03-3221-0052

戦後70年にあたって 退職者会として声明(談話)を発表

来る8月15日、先の戦争が終結して70年目を迎えます。この節目の年に、日本中は安倍政権のたくらむ「戦争をする国」への回帰をめぐる、揺れに揺れています。こうした時に、私たち退職者会は黙って70年目の節目をやり過ごすことはできません。そういう思いでこの声明(あえて「談話」と言う)を発表するものです。

その理由は、私たち退職者会の会員の多くは、この70年間を丸ごと生き抜いてきた者であり、戦後間もなく生を受けた会員もこの70年のほとんどの時期を生きてきた者です。身をもって70年を実証できるわが退職者会が、会員の生きざまを通して、これからの未来に向けた「ことづて」をこの機会に残しておくことに意義を見出すからです。

この70年を振り返る時、一度も「いくさ」を体験することがなかったということの特筆しなければなりません。おそらく日本の歴史上まれな時代と思われる。その間、私たちはただ平和を享受していただけではありません。戦後の荒廃からの復興という難仕事を見事にやり遂げ、経済的にも大きく発展することができた、その原動力は政治家や資本家にあるのではなく、我々庶民・民衆の知恵とたゆまぬ努力にこそあったと言いたいと思います。そして何よりも、平和憲法によって「戦争をしない国」であることが、奇跡的ともいえる今日の日本の繁栄をもたらしたと言わなければなりません。戦争を放棄した憲法第9条をもつ「奇跡的な国民」がいることこそがもたらした「奇跡的」な70年と言えるのではないのでしょうか。

しかし、この奇跡がひとり日本国民のみによってもたらされたと考えることは、独りよがりというものです。日本が起こした無謀な戦争によって近隣諸国やアジアの国々の被害は、死者の数2千万人という数字だけを取ってみてもその甚大さを物語っています。こうした国々と国民への謝罪と反省の上に立って、新たな友好関係を築くなかで得られた我が国の復

7月31日に開催した幹事会で、下記の声明(談話)を決定し、この会ニュースで発表することとしました。ぜひご一読くださり、ご意見をお寄せ下さい。

興と繁栄であったはずです。

私たちは昨年、会の事業として「私の戦時体験記」を編みました。その中で会員たちの悲惨で過酷な体験が語られました。間違いなく私たち庶民は戦争の被害者です。しかし、一方、戦争を止められなかったという点では、日本によって深刻な被害を受けた国の人々から見れば、加害者という側面をもっていることも事実です。言えることは、戦争は私たち庶民を否応なしに巻き込み、被害者にも加害者にもしてしまう、そしてそのどちらも不幸以外の何ものをももたらさないということです。そのことを十分認識したうえで、加害国の国民としての「痛切な反省」と「心からのお詫び」の念を、会員数200名の小さな団体ではありますが表明したいと思います。この反省の上に立ってこそ、再び日本が戦争に組み込まないという「戦争を放棄した」憲法の真髓に則った、友好と協調を基調とした世界平和を希求することができると信じます。そのことを国の施策としても堅持するよう求めていきます。

70年目の終戦の日を前にして (退職者会「談話」)

2015年7月31日 千代田区職労退職者会

その点で、今安倍政権が強行しようとしている「戦争法案」こそは、戦後70年かかって私たち国民が築いてきた社会を破壊し、いっきに70年の道を逆行して再び戦前の日本に回帰したいという、個人的野望に沿った許しがたい暴挙と断ぜざるを得ません。

私たちは、戦争を止められなかった過去の苦い経験を踏まえ、今この時に、安倍の野望を粉碎する固い決意に立ち老体を奮い立たせたいと思います。子や孫や日本中の子どもたちと若者たち、近隣の国々やアジアと世界中の人々に対して、戦後70年目の年に、「戦争をする国」への回帰を断固拒否して「戦争をしない国」をあらためて高らかに宣言したと、誇れる2015年にしたいと思います。



戦争法案を廃案に! 「安倍政権NO」の声

退職者会も国会への抗議要請を4度実施

「戦争法案は廃案」「安倍政治NO」、高まる安保法制反対の声の中で、退職者会も7月14、24、26、28日と国会への抗議要請行動を行いました。会員の参加はのべ26人、会員から寄せられた67署名も直接国会へ提出してきました。

参加者の手記を掲載しますので、連日繰り広げられている国会周辺の熱気を感じていただければと思います。



7月24日、国会・官邸包囲大行動に参加した退職者会

戦争法案を廃案に!

一七・一四 集会に参加して | 桜井和恵

日本を「海外で戦争する国」につくりかえる戦後最悪の戦争法案が七月十六日の衆院本会議で、自民、公明両党で強行採決されました。数の横暴で国民の声を無視し、平和と命にかかわる法案を強行採決した安倍政権に強い憤りと不安を感じています。

連日国会前ではこの戦争法案に反対する多くの人たちが埋め尽くされていますが、私も黙ってはいられず、区職労退職者会の仲間と共に戦争法案廃案!、強行採決反対!の総がり行動、七・一四大集会に参加しました。集合の六時には会場の日比谷野音はすでに満員、会場の周りも次々と戦争法案廃案の声を上げる人々で埋まり二万人を超える集会となりました。その後国

会請願デモへ。ラップのリズムに乗ってコールをする学生、子どもを連れた母親たちの姿に、この運動が大きく広がっていることに勇気と希望をもらいました。そして未来を担う若者、子、孫たちが戦争に巻き込まれることのないように。憲法九条を守らなければ、この悪法を廃案にしなければとの思いを強くしました。

国会請願デモでは衆参議院面会所前で、デモ行進に連帯と激励を送る野党議員団に退

職者会で取り組んだ署名を直接手渡ししました。「廃案までがんばりましょう!」と署名を手渡した日本共産党の池内さおり衆議院議員と力強い握手を交わしました。

衆議院では強行採決されてしまいました。まだまだこれから。廃案にするまで自分のできる行動を続けたいと思います。

国会へ向けてデモ行進

七月二四日に行われた戦争法案反対の集会に参加しました。集合場所の日比谷図書館前には、退職者会の面々七人が顔をそろえ、さっそく会場の日比谷野外音楽堂に入りま

した。会場はすでに満員で、最後部で立ったままの参加となりました。集会は若い人たちによる進行で司会やオープニングは元気のよい声が響き熱気に満ちていました。小林

節教授のスピーチや各地各団体などのアピールがあり、七時過ぎには終わって、参加者は国会や官邸に向かいました。私たちは国会議事堂正門の抗議エリアを目指し歩きましたが、警察官の規制と誘導で正門前に辿りつくことができず、少し離れた場所での抗議行動となりました。歩道は人であふれ、身動きできないほどの抗議の人波でした。

集会に参加して私が思うことは、戦後七〇年を迎えた今年、安倍政権は安保法制を閣議決定したが、政府は国民の生活と安全を守るために、その最大の使命は二度と戦争をしないことである。また、集団的自衛権の問題や憲法の平和主義、立憲主義などを若者たちが学んでほしい。そして何よりも、憲法学者や憲法研究者がこぞって憲法違反と言っている安保関連法案は廃案にすべきで、国民の皆さまと廃案を求めていきたい。

戦争法案反対! 7・24日比谷集会 に参加して

寺山光秀



集会や国会行動への参加を呼びかけます

戦争法案は何としても廃案にしなければならぬ、とお思いの方で、元気な方は、ぜひ、次ページの行動予定を参考に、退職者会の参加する行動にお出でください。その際、暑さ対策を万全にお願いします。

集合場所について

8月20、27日の毎木曜日行動の集合場所は、午後6時20分に旧永田町小学校玄関前。

26日、30日の日比谷集会は、開会30分前に日比谷図書館前。



衆議院議員面会所で直接署名を手渡す

七月二四日に行われた戦争法案反対の集会に参加しました。集合場所の日比谷図書館前には、退職者会の面々七人が顔をそろえ、さっそく会場の日比谷野外音楽堂に入りま

した。会場はすでに満員で、最後部で立ったままの参加となりました。集会は若い人たちによる進行で司会やオープニングは元気のよい声が響き熱気に満ちていました。小林

節教授のスピーチや各地各団体などのアピールがあり、七時過ぎには終わって、参加者は国会や官邸に向かいました。私たちは国会議事堂正門の抗議エリアを目指し歩きましたが、警察官の規制と誘導で正門前に辿りつくことができず、少し離れた場所での抗議行動となりました。歩道は人であふれ、身動きできないほどの抗議の人波でした。

4月からの65歳以上の介護保険料月額

基準額保険料	増減額
千代田区	5700 500
中央区	5920 660
港区	6245 995
新宿区	5900 500
文京区	5642 250
台東区	5650 500
墨田区	5400 0
江東区	5200 400
品川区	5300 600
目黒区	5780 820
大田区	5600 700
世田谷区	5850 750
渋谷区	5630 480
中野区	5664 398
杉並区	5700 500
豊島区	5790 600
北区	5442 717
荒川区	5662 -130
板橋区	5375 925
練馬区	5825 585
足立区	6180 610
葛飾区	5980 800
江戸川区	4900 100

おもな政令指定都市

札幌市	5177 521
仙台市	5493 351
さいたま市	5263 383
千葉市	5150 263
横浜市	5990 990
川崎市	5540 526
相模原市	5357 425
名古屋市	5894 454
京都市	6080 640
大阪市	6758 861
福岡市	5771 409



日本を、戦前に戻す。

松 それで、国

松

さ。それ、国

前号までの会ニュースで、六五歳以上の介護保険料の改定(値上げ)についてお知らせしてきましたが、今月お手元に日本年金機構から「年金振込通知書」が届き、その中で「自分が支払う(天引き)介護保険料の金額を見て、驚き怒った方もいらっしゃると思います。三年に一度の自治体ごとの改定で、今年から向こう三年間の介護保険料の全国の

改定状況が分かりました。東京二三区と政令指定都市の一覧表を掲載しました。都内の月額(基準額)は二〇一三〜一四年度より平均五四六円上がり、五五三八円になりました。都内で最も高いのは港区で九九五円上がって六二四五円。基準額が下がったのは荒川区だけです。

政令指定都市では、大阪市が八六一円上がって六七

五八円に、横浜市でも九九〇円上がって五九九〇円となっています。

介護保険料・軒並み上がる
二三区平均で月五〇〇円以上

五八円に、横浜市でも九九〇円上がって五九九〇円となっています。

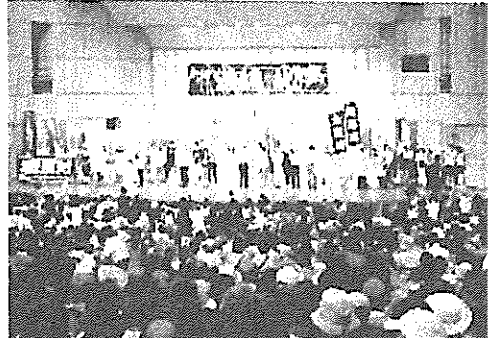
上げ、年金給付の削減、医療費など社会保障制度の改善が進めば、私たち高齢者の生活は危機的な状況を迎えることになるでしょう。

力を合わせて
日本中にあふれろ

戦争法案反対行動予定
8月20日、27日(毎木曜日行動)
午後6時30分~7時30分
衆議院第2議員会館前
8月26日(水) 午後6時30分~
日弁連・日比谷集会(野音)
8月30日(日) 午後2時~
10万人集会(日比谷野音)

戦争法案は絶対廃案に!
「一度は参加せよ」とう・24集会へー山口 智子
マスコミはあまり報道してくれませんが、ネットでは熱気溢れる国会のようすがみとれました。特に若い人たちが「パワーを分けてもらいたい!」連日の国会前行動に「一度は参加しないと!」と思っていました。
七月二四日、退職者会のみ

ど廃案まで頑張ろう。
日比谷野音の集会後国会へ向かいましたが、人波をかきわけ・国会前までたどり着けないほど。この日は七万人が集まったとか。
地域の宣伝署名も毎週続けていますが、日に日に安倍の暴走に怒りが増大。「絶対廃案」の国民の意思は固い!



日比谷野外音楽堂の集会はいつも超満員

9条壊すな!

松 安倍首相の腹の中が見えてきたね。
テツ 側近や取り巻きがつい本音を露呈して問題になっている。その言っている中身が法治国家の否定だったり、立憲主義や民主主義といった民主国家の基礎を壊すような発言だもの。
松 でも安倍は口では否定しても更迭もしないし、態度では認めているように見えるよ。
松 テツ 笑っている場合じゃないよ。戦争法案はこの八月が正念場だ。オレは国会での抗議に参加してくるよ。
松 もちろん僕も...。暑さなんかは負けてはいられない。



投稿

この投稿は、昨年募集した「戦時体験記」に寄せられました。すでに編集を終わっていたため掲載することができませんでしたが、今回、筆者の了解を得て掲載いたしました。

父、叔父のこと 渡辺富子

よく、今の川崎製鉄本社の事務の仕事をしていました。病のため離婚をしました。

私の父が出征したのは、十九年の春頃なのだろうか。私の姉が昭和二十年の早生まれなので、その頃だろうと思います。綿入れの小さな着物上から白いよだれかけをした姉を、後ろから支えている母の指と銘仙の羽織の袖口がちらつと見えるセピア色の写真が、実家のアルバムの上ページ目に鎮座しています。夫にまだ見ぬ初の我が子の写真を、母が送ったのだそうです。父の出征先は外地ではなく、国内の軍事施設だったので生きて帰れたのだそうです。

その頃の私の家は、男手がなく女ばかりになってしまい身重の母が残されたので、外地にいかずすんだことは幸運でした。

私の祖母の兄の子は戦争で死にました。戦地に二回出征し、一度目は無事帰って来たのですが、二度目のときは生きて帰ってくることはなかったそうです。まだ若く独身で、帰ってきたら嫁をもらうからと言って出征したので、本当に気の毒だったそうです。

母の兄は、戦争で心の病になり戦地から帰されたそうです。頭が

よく、今の川崎製鉄本社の事務の仕事をしていました。病のため離婚をしました。

農家だった母の実家にはよく遊びに行きました。広い庭には鶏なども放されていて、病気の叔父が小さい私と妹を「てんからこん」（肩車）をしてくれたり、とてもよく可愛がってくれました。いつの頃だったか忘れましたが、入院先の病院で叔父が亡くなったとき、母は号泣しました。私はまだ小さかったけれど、今でもその光景が忘れられなくて、ふっと思い出すと涙が出ます。

叔父も、祖母の兄の子も戦争の犠牲者です。

この文を書きながら、私も含めて日本人は間接的ではあっても戦争の被害者であり加害者ではないかと思えます。人を亡くした悲しみ、食べ物のないひもじさ、人を殺した切なさや苦しき、そして病に続けた母親や妻たち。聞くたびに胸がつかまるのです。

今、若い人たちが二度と戦争はしないと、平和を守る行動を起こしてくれていることがうれしいです。誠実で分かりやすい明るいたかいだと思います。

報告

年金裁判の原告団の一人として

会長 水上 末二

裁判などという難解な問題に自ら関わることは気軽に決断できませんでしたが、「集団提訴」であるため、それほど心配もなく原告になる決意をしました。全国で2000人をめざしており、千葉県では117名、私の住む佐倉市では47名が提訴しています。

この年金裁判は「特例水準」解消と称して行われた3年間で2.5%の年金削減のうち、最初の年（平成25年）に削減された1%の削減部分に対して争うものです。判決まで5年かかると弁護団から言われています。

そんな中、被告の厚労省は年金裁判移送の申し立てをしました。鳥取県扱いのものを広島地裁に、徳島県扱いのものを高松地裁にするというものです。

昨年行った「再審査請求」が却下された際、裁決書謄本の送り状には「お住まいの地域の地方裁判所に提訴することができます」とあります。それなのにひどいやり方です。年金者組合は憲法32条に保障された裁判を受ける権利を制約する不当な申立てと強く抗議しています。

この裁判闘争に幹事の皆さんから激励の言葉と心温まるカンパを寄せていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。さっそく闘争団長にお渡ししました。裁判の様子は逐次お知らせいたします。日本中の年金生活者の生存権をかけてがんばります。

お便り

吉沢英子さんから、署名と一緒に左記のお便りが届きました。ここに紹介します。

幹事、役員の方々の『たゆまぬ会の運営』を頼もしく、「会報」も多彩な行事を企画、そして健康で活力ある会員の参加。各々の感想文ものびのびとよく書かれていられて、これも楽しみの一になります。

今、平和の続いた日本の国に、また『不安な火種』が生まれそうな国状に心が痛みます。『戦時を体験した者』の心が波立ちます。安保法案の廃案を強く望みます。

現会員の学習欲、バイタリティー、脱帽です。『秋の旅行会』も羨ましいです。皆さん待望の日程が好天に恵まれることを祈念！私は地域の『卒寿組』小庵で居ます。

平成二十七年七月七日

吉沢 英子



世界遺産・富岡製糸場と伊香保温泉・榛名山の旅

9月13日(日)14日(月)

詳しくは別紙チラシを